

蔵王山測候所の写真と地図について

山形大学学術研究院・山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 柳澤文孝

1. はじめに

昭和16年11月、陸軍は山頂観測所を開設して気象観測を行うことになり、蔵王山では陸軍気象部が蔵王山中腹に作られていた「蔵王小屋」を接收して気象観測を行いました（昭和61年 中川勇編著 陸軍気象史）。昭和17年12月、陸軍の委託を受けた中央気象台山形測候所は「蔵王小屋」に「蔵王山臨時気象観測所」を開設して予備観測業務を開始しました。昭和18年9月、蔵王山地蔵岳山頂に「蔵王山測候所」が竣工したことから、蔵王における観測業務は「蔵王山測候所」に移行されました。戦後、「蔵王山測候所」はGHQの許可を得て昭和22年9月まで（昭和21年10月から昭和22年6月まで一時中断）観測を行っていました（山形

地方気象台「山形の気象」1962年 など）。

蔵王山地蔵岳山頂の「蔵王山測候所」では、昭和18年9月から昭和22年9月まで気象観測が行われていました。当時の気象観測記録が山形気象台から見ついています（図1－図3）。「蔵王山測候所」は平屋建て（一部3階建て）とされており（平成4年 山形地方気象台「山形の気象百年」）、平屋部分が居住スペースで3階建て部分が観測棟と考えられます。また、「蔵王山測候所」の位置情報（北緯38度9分、東経140度26分、海拔1760m）はありますが、当時の写真や地図は残っておりませんでした。

今回、写真と地図が見つかりました。

表 蔵王山における研究略史

昭和 年度	日本の動き	富士山・岩手山・伊吹山 中央気象台 氷結防止研究会 海軍航空技術廠委託	ニセコアンヌプリ 中谷宇吉郎 海軍委託	蔵王山頂			蔵王(蔵王小屋:陸軍16年接收・19年春撤収)		蔵王山頂	
				文部省 緊急科学研究費・重要研究課題*1	陸軍気象部 着氷研究	着氷ソング	理化学研究所 着氷研究	測候所 気象観測		
13	国家総動員法									
14	文部省 科学研究費交付金							着氷研究(黒田正夫)		
15										
16		着氷実験(風洞・模型機)		16年北大低温科学研究所設置・16-17年ニセコで予備研究		樹氷について山高に問い合わせ				測候所設置決定
17	技術院設置			蔵王小屋で着氷実験(小型風洞と模型翼)、17年冬北大低温研職員滞在		試験準備				蔵王山臨時気象観測所開設(山形測候所職員訓練)
18	科学技術動員・研究者登録制度(技術院や陸軍による調査)		ニセコ山頂着氷研究所竣工	着氷実験(予備研究・測候所でも実施?)、加藤助教授記者発表 *2						山頂へ移転→
19	科学技術の戦力化に関する閣議決定(陸海軍研究の統合)		着氷実験(実機)	蔵王小屋を買収し測候所隣に移築(蔵王高層気象着氷対策研究所)・本研究 *3 *5	←山頂へ移転		実証試験(蔵王小屋・コーホルトヒュッテ・山の家) *5 *6			昭和18年9月、蔵王山測候所竣工、気象観測(陸軍委託項目あり)
20	終戦・資料等の破壊命令・GHQへ報告命令		実機破壊・資料破壊せず	機材撤収・資料を破壊(一部は中谷研黒岩大助助手へ) *4			GHQへ報告			GHQ気象観測継続を許可
21										蔵王山測候所、気象観測
22										

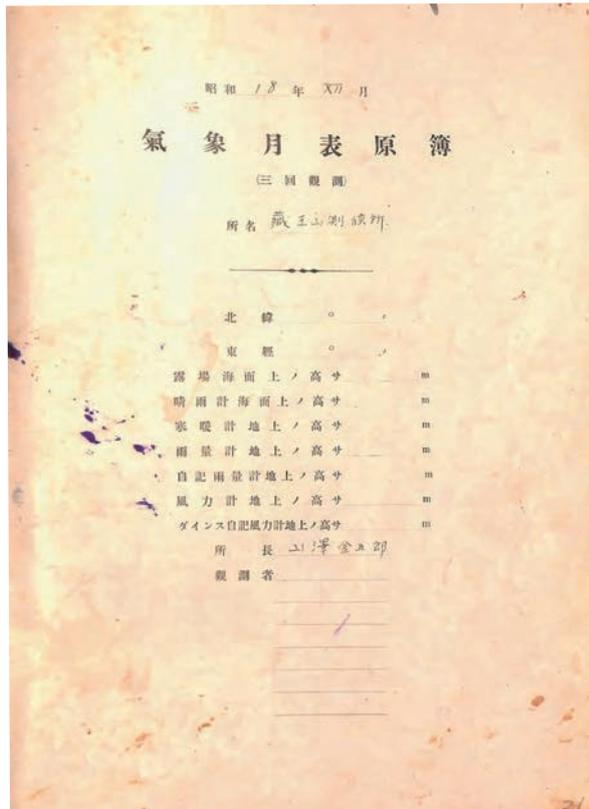


図1 氣象観測記録 (1)

図2 氣象観測記録 (2)

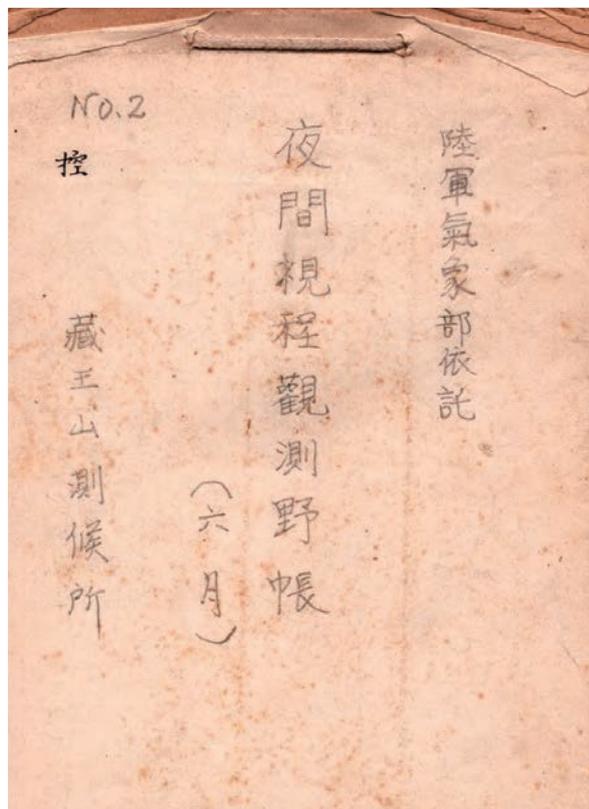


図3 氣象観測記録 (3)

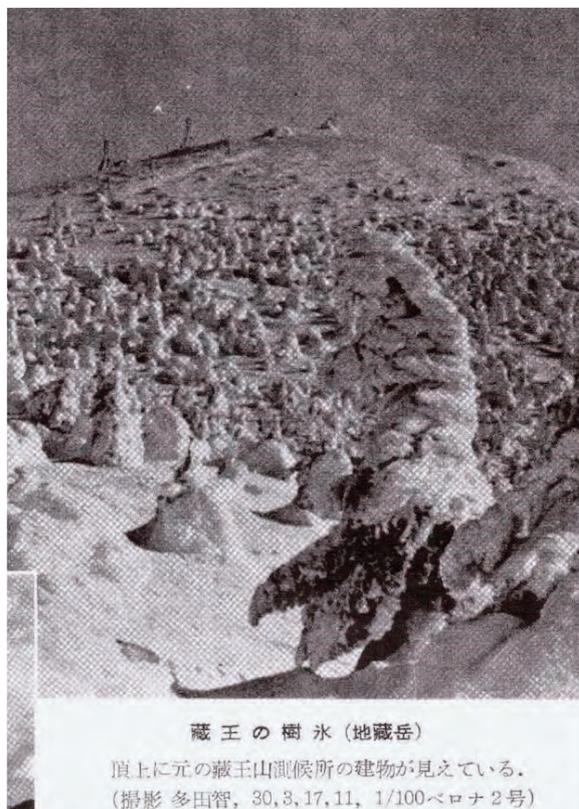


図4 「藏王測候所」多田智氏撮影 (昭和30年「天気」)

2. 写真について

(1) 「蔵王測候所」

昭和30年2月に発行された雑誌「天気」に掲載された多田智氏が撮影したもの（図4）です。

(2) 「山形の気象」

昭和37年に山形地方気象台が発行した「山形の気象」に掲載された写真（図5）です。山形地方気象台によりますと、これ以外に写真や資料は残っていないとのことでした。

(3) 平山栄伸氏撮影の写真

昭和19年1月28日から2月4日まで東京の写真館の長澤壽三（利彦）氏と教員の平山栄伸氏は蔵王山にスキーと写真撮影においでになりました。蔵王山頂の写真は、昭和19年2月3日に平山栄伸氏が撮影されたものです。写真に写っている2人は長澤壽三（利彦）氏と案内人の織田求己氏と推定されます（図6）。昭和19年2月「蔵王高層気象着氷対策研究所」は蔵王山頂に移設されておらず、山頂には「蔵王測候所」しかありませんでした。そこで、蔵王山山頂付近に雪の塊として見える建

物は「蔵王測候所」と判断されます。なお、写真は平山順一氏・須藤明子氏・須藤江美氏より提供されたものです。

(4) 絵葉書「蔵冬の蔵王山 雪景（山形県・宮城県） 記念スタンプ入」

絵葉書「蔵冬の蔵王山 雪景」に含まれている「お伽の国の気象観測所の粧い」です（図7）。「蔵王測候所」の観測棟を見ることができます。1階の居住スペースを含め、大部分が着氷で覆われていることから、写真撮影時に「蔵王測候所」は稼働していなかったと推定されます。「MT.ZAO」と英語が使われていることから戦後のものと判断されます。また、封筒に「第五種郵便」の記載がありますが、「第五種郵便」が開封便に使用されるのは昭和27年からです。昭和20年代末には着色された絵葉書が使われていますが、今回、発見した物はモノクロです。また、絵葉書に記念スタンプが付いています。蔵王は昭和26年に観光地百選に選ばれております。以上から、この絵葉書の測候所は観光客向けに昭和26年頃に撮影され昭和27年頃に発行されたものと考えられます。



図5 「蔵王測候所」
（昭和37年 山形地方気象台「山形の気象」）



図6 「蔵王山頂付近」
（昭和19年2月3日 平山栄伸氏撮影）

(5) 「ZAO」山形市観光協会

山形市観光協会発行のパンフレット「ZAO」に、全体が凍った測候所が写っています（図8）。パンフレットには1961年から年代が入っておりますので、このパンフレットは1960年またはそれ以前に作られたと推定できます。

(6) 「山形県観光便覧」山形県観光協会

昭和45年に山形県観光協会が発行した「山形県観光便覧」の表紙に蔵王山頂の写真が使われています（図9）。山頂付近に無線中継所が見えますが、測候所は見当たりません。「蔵王測候所」は昭和40年代に撤去されたとされています。この写真は測候所撤去後に撮影されたものと考えられます。



図7 絵葉書「厳冬の蔵王山 雪景（山形県・宮城県） 記念スタンプ入 MT.ZAO」の「お伽の国の気象観測所の鞋い」

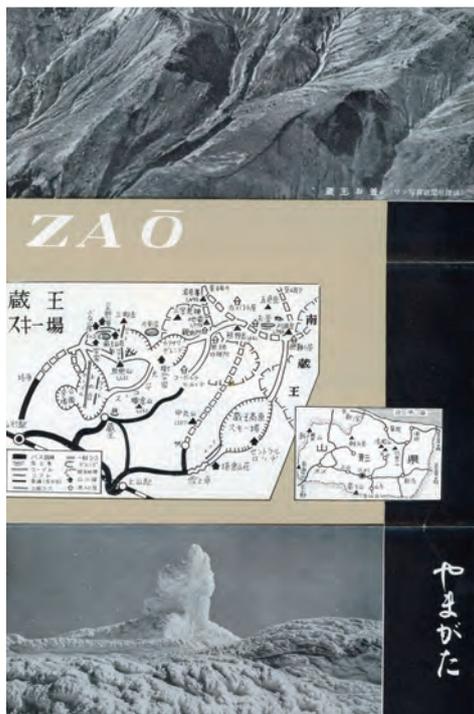


図8 「ZAO」山形市観光協会

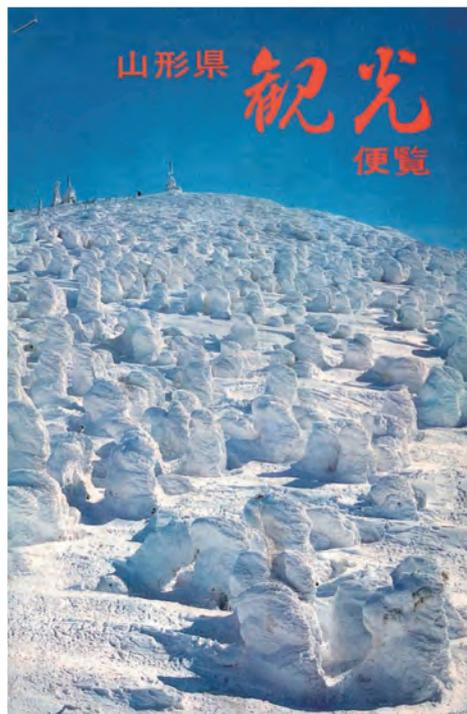


図9 「山形県観光便覧」表紙（昭和45年 山形県観光協会）

3. 地図について

(1) 「山岳気象報告」

昭和26年に中央気象台が発行した「山岳気象報告」に掲載されている測候所位置の略図です(図10)。

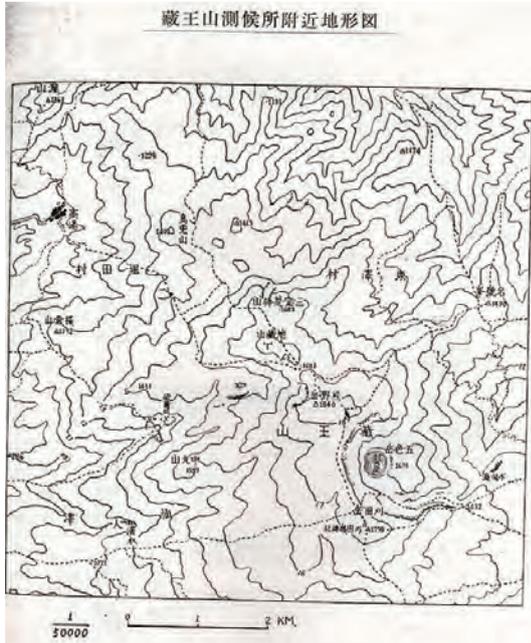


図10 「蔵王測候所」周辺の地形図
(昭和26年「山岳気象報告」)

(2) 堀修一作作成

堀修一が作図した地蔵岳山頂に「気象研究所」の記載のある地図(作図:堀修一、発行:郁文堂)です(図11・図12)。なお、昭和19年秋に、東北帝国大学の加藤助教授らによって「蔵王山測候所」の直下に蔵王小屋が移設され、「蔵王高層気象着氷対策研究所」として終戦まで稼働していました。地元の人は「蔵王山測候所」と「蔵王高層気象着氷対策研究所」を合わせて「気象研究所」と呼んでいたことから、「気象研究所」と記載されたものと考えられます。

この地図には山形高等学校の記載があります。山形高等学校は昭和24年に山形大学となっていることから、この地図は昭和23年より前に作成されたものと考えられます。また、地図では廃屋になった山小屋等の記載がありますが、「気象研究所」に廃屋の記載はありませんので、「蔵王山測候所」が稼働していた期間に作られたと推定されます。一方、「蔵王山測候所」は軍事施設のため、戦時中に印刷地図が作られたとは考えられないことから、発行されたのは戦後(昭和21年-22年)と推



図11 山形市の地図(作図:堀修一、発行:郁文堂)

定されます。

作図が堀修一氏で発行が郁文堂となっています。地図に記入されている斜線や点に太細、濃淡が見えることから、大きな文字を除き、ほぼ全て手書きと考えられます。また、紙は薄手で、地図として携帯するには適していません。紙の入手が困難であった時期に作成されたと考えることができます。一方、距離やバスで何分かかるか、ある

いは、山岳部にツアーコースなどの記載があることから登山などの観光目的で作られたと考えられます。

(3) 「ZAO」山形市観光協会

山形市観光協会発行のパンフレットです。全体が凍った測候所が写っており、地図には観測所と無線中継所の記載があります(図8)。



図12 地図 拡大 (作図：堀修一、発行：郁文堂)